

## 経営倫理研究所

### Epistemic Research Institute of Social Ethics (ERISE エリス)

#### 研究所の概要

経営倫理研究所 (ERISE) は、情報社会学 (Infosociomics)、特にその中の情報社会学近代化モデルに立脚して、近代文明の進化の可能性に関する理論的研究と、それに基づく実践を、アジア/アフリカの大学/政府関係機関等と協働で実施する研究所です。ERISE は、応用情報社会学の世界学会 (世界応用情報社会学会 (Global Society of Applied Infosociomics)) の事務局を務め、世界の研究拠点になっております (ERISE 所長・前田充浩は世界応用情報社会学会副会長)。

情報社会学近代化モデルは、近代化を、国家化、産業化及び情報化 (智識化) の3つの局面で捉えます。今日の世界の動きは、全てが国家化、産業化及び情報化 (智識化) の動きの重畳 (super-imposition)、すなわち重ね合わせとして捉えられます。世界の動きを、政治の動き、経済の動きの分析に加えて、生み出されつつある新たな価値、叡智に関する動きの重ね合わせと見るのです。ERISE が対象にするのは、この新たな価値、叡智です。英語名を、'Epistemic' Research Institute としているのは、このことを表します ('Economic' Research Institute というのは、経済の動きを分析することを意味します)。

ERISE は、第3新近代及び文明多様性 (Civilizational Diversity) という思想に立脚し、明確な未来のビジョンの下、アジア/アフリカの大学/政府関係機関と多くの協働プロジェクトを推進しており、活動の中核は、目下、アフリカ、中央アジア及びASEAN となっております。



#### 所長

前田 充浩

MAEDA Mitsuhiro

#### キーワード

経営倫理、近代化、グローバル化、情報社会学、情報社会構築学、

#### 令和4年度の実施項目

1. 応用情報社会学会に関するアジア/アフリカの大学/政府関係機関等との共催セミナー (「グローバル・セミナー・キャラバン」) 及び協働研究の推進

:引き続き、応用情報社会学に関するアジア/アフリカの大学/政府関係機関等との共催セミナー (「グローバル・セミナー・キャラバン」) 及び協働研究を推進をしていきます。共通テーマとしては、応用情報社会学における最先端の研究分野である「Global Endogenous Modernization」 (世界内生的近代化) を取り上げます。これは、アジア/アフリカが内生的に近代化を進めることができる可能性を検討するものであり、第3新近代、SDGs の「No One Left Behind」のローガンの理論的根拠となることが期待されます。

2. 文明多様性に関する理論の整備と実践

:引き続き文明多様性に関する理論を整備するとともに、実践を推進します。

理論については、文明多様性に関する理論的基礎である脳機能文明分析 (Brain Functional Analysis of Civilizations) に関する協働研究を進めるとともに、共催セミナーを開催してまいります。

実践については、NPO 法人文明多様性協会と連携し、当面の最大の実践課題である DX 林業の各種のプロジェクトを推進してまいります。「プレミアム林業」に関して宮城県登米市におけるプロジェクト林における各種研究を進め、「世界プレミアム林業サミット」を開催する予定です。

### 3. 芸術工学

: 芸術工学 (Artware Engineering)、特に音楽工学 (Musical Artware Engineering) について、引き続き理論の整備と実践を推進します。

## 令和3年度の研究活動内容及び成果

### 1. 世界応用情報社会学会 (Global Society of Applied Infoscionomics : Glo-SAI)

: 応用情報社会学は、情報社会学の成果を情報社会建設に応用するためのアカデミックな方法論です。ERISE は応用情報社会学に関する国際的な学会 (『世界応用情報社会学 (Global Society of Applied Infoscionomics)』の事務局を務めることとなり、ERISE 所長・前田充浩は同学会の副会長を務めることとなりました。

### 2. 『ERIMeR (エリマ) : Epistemic Research Institute of Mekong Region (メコン地域開発研究所)』

: ERISE は、メコン地域諸国とは強力な協働関係を構築してきています。

ベトナムでは、ハノイ経営工科大学との間で 2017 年以降、ベトナム全土のデジタル・トランスフォーメーション (DX) をドイモイの枠組みで推進するための発展戦略である『Advanced Doi Moi』に関する協働研究を推進してきております (ERISE 所長前田充浩はハノイ経営工科大学名誉教授)。Dong A 大学 (ダナン) との間で 2018 年以降、ベトナム中部におけるデジタル産業振興に関する協働研究を推進してきております。

ラオスでは、ラオス首相府経済研究所 (National Institute for Economic Research) との間で 2019 年以降、ブロックチェーンを中心とするデジタル技術によるラオス情報社会建設に関する協働研究を推進してきております。

カンボジアでは、カンボジア首相府との間で 2017 年以降、中小企業振興に関する協働研究を推進してきており、2017 年 12 月に、H.E. Son Koun Thor 首相府大臣より ERISE 所長前田充浩に対して、ERISE の活動を評価し、今後のカンボジア首相府との連携に関する大臣親書が交付されました。これらの関係を背景に、メコン地域における情報社会建設のための発展戦略構築を総合的に推進するため、『ERIMeR (エリマ) : Epistemic Research Institute of Mekong Region

(メコン地域開発研究所)』を設立し、2021 年 11 月 26 日に設立総会/国際セミナー [遠隔] を開催しました。

### 3. 芸術工学

: 芸術工学 (Artware Engineering) とは、人間に優れた芸術体験 (Artistic Experience) をもたらす芸術のことを Artware として捉え、それを生産するための手法を工学的に研究する新しい学問です。近いものに感性工学がありますが、感性工学では感性が明確には定義されていないのに対して芸術工学では、脳機能文明分析 (Brain Functional Analysis of Civilizations) 等の方法論に基づき、脳生理学的に定義されていること、感性工学の研究対象は主に経済活動 (モノづくり、サービス) であるのに対して芸術工学の研究対象は芸術である、という違いがあります。

2020 年度には芸術工学研究を支援するための組織である一般社団法人ピグマリウス・アカデミアが設立され、ERISE 所長前田充浩が理事に就任するとともに、ERISE と一般社団法人ピグマリウス・アカデミアとの組織的な連携関係が構築されました。

2021年度においては、一般社団法人ピグマリウス・アカデミアとの連携で、2021年12月5日〔対面〕、宮城県登米市において、「芸術工学セミナー」を開催しました。

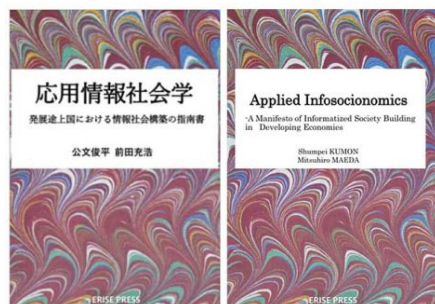
#### 4. 文明多様性 (Civilizational Diversity)

：ERISEは、NPO法人文明多様性協会と連携し、地球上の文明多様性の推進、特に文明多様性を保持した形態での近代文明の進化の方向性に関する研究及び実践を積み重ねています。

2021年度においては、Umbu Marisi 財団（インドネシア、スンバ島）と連携し、「文明多様性ワークショップ」（〔遠隔〕、2021年9月19日及び9月26日。）を開催するとともに、一般社団法人登米芸術文化村と連携し、宮城県登米市において（〔対面〕）、「文明多様性セミナー」を2021年12月6日及び2022年3月24日に開催しました。

#### 5. 著書紹介

応用情報社会学について詳しくお知りになりたい方は、以下の教科書がお求めいただけます。日本語版（円で購入）と英語版（米ドル、ユーロ、英ポンドで購入）があります。



(ERISEの国際的連携の例)



(SADC-dfrc (南部アフリカ開発共同体開発銀行協会) Stuart Kufeni 総裁。ERISEとSADC-dfrcとは2016年11月及び2018年3月にハボロネで共催セミナー開催)



(キルギス H.E. Rosa Otonbaeva 前大統領。2017年9月以降キルギス共和国とは協働プロジェクトを実施。2019年10月、ERISE 所長・前田充浩はキルギス共和国大統領府顧問に就任。)



(H.E. Son Koun Thor 首相府大臣とのワークショップ (カンボジア首相府 (写真右)、プノンペン)。  
2017年12月及び2021年1月に開催。2017年のワークショップ後、大臣より ERISE 所長前田充浩に対して大臣親書が交付された。)